

入院者訪問支援事業（令和6年度以降）

資料3—1

- 精神科病院で入院治療を受けている者については、医療機関外の者との面会交流が特に途絶えやすくなることを踏まえ、入院者のうち、家族等がない市町村長同意による医療保護入院者等を中心として、面会交流の機会が少ない等の理由により、第三者による支援が必要と考えられる者に対して、希望に応じて、傾聴や生活に関する相談、情報提供等を役割とした訪問支援員を派遣するもの。
- 実施主体は都道府県、政令指定都市（以下、「都道府県等」という。）

精神科病院



【支援対象者】

- (1) 市町村長同意による医療保護入院者であって、本事業による支援を希望する者
- (2) 地域の実態等を踏まえ、(1)と同等に支援が必要として都道府県知事が認め、本事業による支援を希望する者



孤独感、
自尊心
の低下

誰かに相談し
たい、話を聞
いてほしい



【精神科病院に入院する方々の状況】

医療機関外の者との面会交流が特に途絶えやすく、

- ・ 孤独感や自尊心の低下
- ・ 日常的な困りごとを誰かに相談することが難しい、支援を受けたいが誰に相談してよいかわからないといった悩みを抱えることがある。

第三者による支援が必要

第三者である訪問支援員が、医療機関外から入院中の患者を訪問し支援

※入院者の求めに応じて、都道府県等が派遣を調整



面会交流、支援
傾聴、生活に関する
相談、情報提供 等



※2人一組で精神科
病院を訪問

都道府県等による選任・派遣

【訪問支援員】

- 都道府県知事が認めた研修を修了した者のうち、都道府県知事が選任した者
- 支援対象者からの求めに応じて、入院中の精神科病院を訪問し、支援対象者の話を誠実かつ熱心に聞く（傾聴）ほか、入院中の生活に関する相談や、支援対象者が困りごとを解消したり、希望する支援を受けるためにはどうすれば良いのかを対象者に情報提供する。

【入院者訪問支援事業のねらい】

医療機関外の第三者が、支援対象者と会話を交わし、支援対象者の話を傾聴することにより、様々な思いを受け止め、対象者が自らの力を発揮できるよう、対象者の立場に立って寄り添うもの。

（留意点）

- ・ 令和6年度より法定事業として位置づけ。（守秘義務等）
- ・ 訪問支援員について、特段の資格等は不要。※研修修了は義務
- ・ 訪問支援員が対象者に代わって対象者の困りごとを解決することや、訪問支援員が医療・介護・障害福祉サービスの利用を調整したりサービスを自ら提供することは、本事業の支援として意図するものではない。

精神科病院に入院している支援対象者の自尊心低下、孤独感、日常の困りごと等の解消が期待される。

本事業に係る会議体

- 都道府県等は、本事業を円滑に進めるため、事業の実施内容の検討や見直し等を行い、関係者の合意形成を図るための会議体及び事業の円滑な推進と更なる充実を図ることを目的として、実務者が協議するための会議体を設置する。

進め方の検討・見直し

推進会議

【目 的】

運営を管理する者および訪問支援を受け入れる医療機関と訪問支援を行う者が、実施要領や事業計画の策定、実務者会議から報告される事業の実施状況や課題等をもとに**事業の進め方について検討や見直しを図る**場とする。

【実施主体】 都道府県等の主管課を中心とする

都道府県等の協議の場（地方精神保健福祉審議会、自立支援協議会、地域移行を推進する部会等）の活用を可能とする。

【参加者】

都道府県等主管課、精神保健福祉センター、保健所、当事者、当事者家族、精神科病院協会等の関係団体、
その他有識者等

課題等の洗い出し・検証

実務者会議

【目 的】

訪問支援員や訪問支援を受け入れる精神科病院の関係者等が、定期的に事業実施における具体的な課題や支援のあり方等について協議し、その結果については適宜、推進会議へ報告する等、**事業の円滑な推進と、更なる充実を図る**場とする。

【実施主体】 都道府県等の主管課を中心とする

（運営事務については委託を可能とするが、都道府県等事業担当者の会議への参加は必須とする）

【参加者】

都道府県等主管課、委託先事業者、訪問支援員、精神科病院等の関係者、市町村実務担当者（市町村同意に係る部署、及び医療保護入院患者の支援に係る部署の担当）、その他の当該事業に係る者等

令和6年度千葉県入院者訪問支援事業 訪問支援員養成研修概要（報告）

🌿 日時・会場 🌿

①オンライン講義（事前学習） 約5時間

②集合研修 約6時間 （R6.10.7及びR6.12.16の計2回実施）

千葉県こころセンター（精神保健福祉センター）研修室

🌿 受講対象者 🌿

※①から④すべての要件を満たす者

①訪問支援員として活動を希望し、千葉県及び千葉市における受講者名簿に登載することに同意する者

②精神障害者に対する相談支援に携わった経験がある者、ピアサポート活動の経験がある者、精神保健福祉ボランティアの活動経験がある者のいずれかに該当する

③オンライン講義について自身で通信環境を準備し、視聴できること

④本研修の全日程に参加できること

🌿 受講定員 🌿

40名／回

🌿 修了者 🌿

合計80名（支援者56名、ピア21名、ボランティア経験者3名）

養成研修等で寄せられた意見

- 傾聴が基本で訪問支援員がやれることには限りがある。しかし、本人のために訪問に来てくれるという存在自体に意味があるのではないか。
- 病院側からは不安の声もある。どんな人がくるのだろうか、訪問で具合が悪くなったらどうするか、けがをさせたらどうするか等。
- 訪問するペアのマッチングや訪問後のフォローが大事ではないか。
- ピアが当事者の立場で発言できれば、安心感につながるのではないか。
- ピアサポーターの活躍の場になるといいのではないか。
- 事前に患者さんの情報をどこまで聞くべきか。
- どのように周知するべきか。
- 訪問支援員に報酬はあるのか。

病院等から寄せられた意見

- 病院としては、あらかじめ訪問支援員が誰か教えてもらいたい。
- 対象者は、市長村長同意の医療保護入院者のみなのか。
- 面会時間はどのくらいか。
- 何回でも利用できるのか。
- 訪問支援員が病院の方針と異なる支援をした場合、混乱が生じないか。
- 面会時の話を病院側に教えて欲しい。
- 面会する場所の配慮が必要ではないか。
- 実際に訪問する際のフローはどのようなものか。
- 個人情報電話で回答するのは抵抗を感じる。

令和7年度千葉県入院者訪問支援事業 概要(案)①

- 実施主体：千葉県（一部、業務委託により実施）
- 支援対象者：県内の精神科病院に入院中で、以下の①又は②により事業による訪問を希望する者
（千葉市長同意の医療保護入院者への訪問は千葉市が実施予定）
 - ①市町村長同意の医療保護入院者
 - ②地域の実情を踏まえ①と同様な支援が必要と思われる者
- 訪問支援員：養成研修修了者から千葉県が選任した者で訪問する病院に利害関係のない第三者の立場の者を派遣
- 周知方法：リーフレットを作成し、病院職員を通じて対象者に配布する。また、医療保護入院の同意を行った市町村の職員が面会する際に、本事業を紹介する。

令和7年度千葉県入院者訪問支援事業 概要(案)②

- ➡ 訪問回数：1回あたり30分～1時間程度
1人あたり2回程度

※訪問支援員には報償費及び旅費を支出し、傷害保険に加入予定

- ➡ 派遣調整【委託】：入院患者や病院職員からの依頼を受け、訪問する訪問支援員の人選、日程調整及び報告等の管理を行う。
- ➡ 協議の場の設置：①推進会議（県）
②実務者会議（委託）
- ➡ 訪問支援員養成及びフォローアップ研修：年1、2回程度実施

令和7年度千葉県入院者訪問支援事業 概要(案)③

- 委託事業所選定については以下のとおり実施
- 方法：企画提案プロポーザル方式
- 募集期間：現在募集中（R 7 年 3 月 1 2 日まで）
- 内容：千葉県全域を対象に以下の事業を行う
 - ①訪問支援活動の実施（相談受理、訪問支援員派遣調整から実施報告まで）
 - ②実務者会議の実施、推進会議への報告
 - ③事業の周知 等

推進会議について(案)

- ➡ 設置根拠：千葉県入院者訪問支援事業実施要綱第5条の（５）に基づく
- ➡ 目的：事業の実施状況の把握、実務者会議等から報告を受けて課題の検討、事業の全体評価 等
- ➡ 精神障害者地域生活支援部会内に置く
- ➡ 構成メンバー：部会委員及び必要な構成員を検討。
（法律関係者の参加について等）